

思いやりの心もち、共に生きようとするにっこの育成

—道徳の授業や体験活動の工夫と家庭・地域との連携を通して—

あま市立甚目寺西小学校 鈴木 文博

1 はじめに

本校は、昭和 55 年甚目寺小学校より分離、独立し本年度開校 30 周年を迎えた。現在、学級数 14、児童数 351 名という学校規模である。本校が位置する甚目寺町は、名古屋市の西隣に位置している。平成 22 年 3 月には、美和町、七宝町と合併し「あま市」になることが決まっている。地域には、甚目寺観音をはじめとする文化遺産のほか総合体育館、総合福祉センター、児童館など公共施設にも恵まれ、それらを利用して人々が触れ合う姿がよく見られる。

「モラルの低下」と最近よく耳にする。人の生活は豊かで便利になったが、その一方で個人の自由や権利を主張するあまり、周りの人への思いやりの気持ちが置き去りになってしまった。その結果、人と共によりよく生きるために必要な規範意識が薄れ、これがモラルの低下の要因となっている。子供たちはそのような社会で生まれ、生活をしている。

私たちが生活する社会は、個人と個人がかかわり合いながら生活を共にするところに成り立っている。それは、「社会生活上のルールを守りマナーを身に付けることが大切である」といった価値観を共有することで、よりよく維持されているのである。本研究では、子供たちが安心して夢や希望を語り、自分らしく明るく生きる未来を切り拓いていくために、一人一人の規範意識を高め、人としてどう生きるべきかを主体的に考える力を育てる道徳教育を推進していく。

2 研究の目的

本校の子供たちを見ていると、分かっているはずの校内のきまりや生活目標が行動に表れてこない場面に出あうことがある。これは、ルールを守ることですがすがしい気持ちになったり、そのような自分に価値を見いだしたりする経験に乏しいためだと考えられる。このような子供たちの実態から、ルールを与えるだけでは規範意識は育たず、ルールを守り、マナーを身に付けることで自分たちの社会は維持され人としてよりよく生きられる、という真の意味を子供たちに体得させる必要性が見えてきた。自分、友達、周りの人、地域、社会を大切に思う気持ちがなければルールは守れない。だからこそ、多様なかかわりを通して、自他を大切にし、人をやさしく思いやる気持ちを育てていくことで、規範意識を高めていきたい。

3 研究の方法

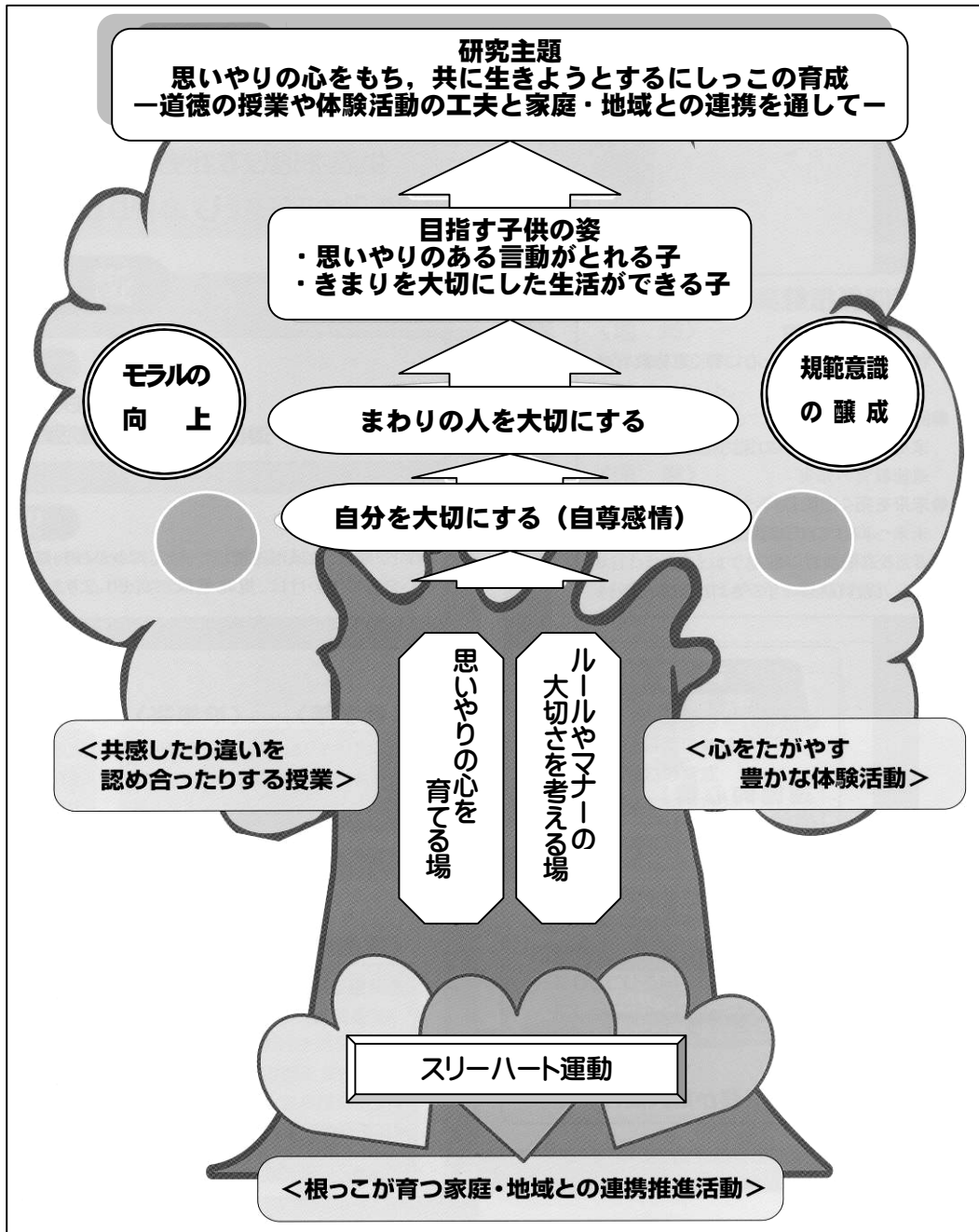
本校では研究テーマ実現のために、道徳教育を教育活動の中心にすえ、道徳の時間に行う「道徳の授業」、他と触れ合うことで今まで気付かなかった自分のよさや友達のよさに気付かせてくれる「体験活動」、家庭・地域と連携して道徳教育を実践する「連携活動」の三つを柱として研究を進める。

そして、「きらりにしっこ」と題して目指す子供の姿を次のように設定した。

きらりにしっこ

- ☆ 思いやりのある言動がとれる子
- ☆ きまりを大切にしたい生活ができる子

(1) 研究構想図



(2) 共感したり違いを認め合ったりする道徳の授業の工夫

- ア 生活目標や行事、体験活動と関連付けた年間指導計画を作成する。
- イ 1時間の授業の組立て方を工夫する。
- ウ 伝え合う力を育てる。(話し合いのスキルを高める時間を設定する)

(3) 心をたがやす豊かな体験活動の工夫

- ア 異学年交流活動、児童会活動、勤労生産活動の内容を見直し、充実を図る。
- イ 日常実践活動を推進する。

(4) 根っこが育つ家庭・地域との連携(スリーハート運動)

- ア 地域清掃(にしっこクリーンキャンペーン)を計画し、実施する。
- イ 相互理解を深める啓発活動を推進する。
- ウ 図書ボランティアと連携した読書活動の充実を図る。

エ モラル委員会を設置する。

4 研究の内容

(1) 共感したり違いを認め合ったりする道徳の時間の工夫

ア 年間指導計画の作成

毎年、前年度の反省を基に、資料を見直し、体験活動や地域連携活動との関連を考え、指導計画を作成している。指導内容の系統や発展を表した表や内容項目ごとの一覧表も併せて作り、他学年との関連が分かるように、全学年分を冊子にして活用している。身近において使いやすいように、各学年、学期ごとに1枚にまとめ、資料や道徳プリントを計画的に作ることに役立てている。今年度は新学習指導要領の指導内容に併せて改訂した。

新学習指導要領で改訂された内容項目

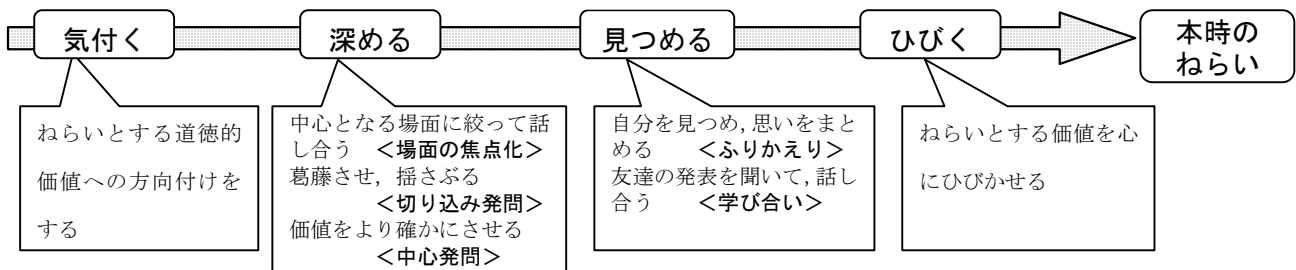
学校行事と関連させた内容

月	主 題 名	内 容 項 目	心 の ノ ー ト	体 験 活 動	地 域 連 携	生 活 目 標
9	たった一のキャベツから【文】	2-(1) 礼 儀	礼ぎ一形を大切に心をかよわせ合う			き身のまわりのまわりをしよう
	学校自まん集会	4-(4) 愛校心	学校はどんなところ？	☆スポーツフェスティバル		
	伊良湖の書道家	1-(5) 個性の伸長	自分のよいところはどこだろう？			
10	お母さん泣かないで【文】	3-(1) 生命の尊重	生きているってどんなこと	交通安全教室		うしっかりとそうじをしよう
	おばあさん	2-(2) 思いやり・親切	思いやりの心をさがそう		親子読書	
	お手づたい	4-(2) 勤 労	みんなのために流すあせはとても美しい	芋ほり収穫祭		
	こわされたタワー	2-(2) 思いやり・親切	思いやりの心をさがそう	わくわくタイム		
11	森がすき【文】	3-(2) 自然愛・動物愛護	植物も動物もともに生きている			落ち着いて生活しよう
	ぶち合わせたいこ【文】	1-(2) 勤勉・努力、不とう不屈	「今よりよくなりたい」という心をもとう	学習発表会		
	雨より強い子	1-(1) 節度・節制、自立、思慮	よく考えることがあなたをもっとのびす			
	プレゼント【文】	4-(3) 家族愛	わたしの成長を温かく見守り続けてくれる人…家族			
12	しあわせの王子【東】	3-(3) 敬 けん	自然の美しさにふれて	人権週間		う2学期をふり返る
	火事	2-(4) 尊敬・感謝	みんなにささえられているわたし			
	生けがきのせんてい	1-(4) 正直・誠実、明朗、反省	自分に正直になれば、心はとても軽くなる			

イ 授業の組立て方の工夫

道徳の授業を下図のような組立てで実践している。ポイントを絞って話し合うことで、子供たちは、自分の気持ちを素直に話し、よりよく生きていくためにはどうするとよいか考えることができるようになってきた。今年度は、子供たちの考えを深める学び合いに重点を置いて取り組むことにした。また、ゲスト・ティーチャーを招いて、子供たちの心に思いが響くような工夫をした。

道徳の授業の組み立て



ウ 授業実践

(7) 2年生「えんぴつは なんさい」（「2年生の道徳」文溪堂 1-(1) 節度, 自制, 自立)

気付く

学校や教室に落ちていたハンカチや鉛筆などを見せることによって、身近な問題としてとらえさせ

た。まだ使える物や名前が書いてないために持ち主に届けることができない物などがあることを知らせ、ねらいとする価値につなげることができた。

深める

切り込み発問として、祖父に鉛筆は 71 歳だと聞いたときの主人公の気持ちを考えさせたことで、鉛筆に年齢などないと思っていた主人公の気持ちの変化を感じ取らせることができた。「けずりすぎてみじかくなったえんぴつ」をキーワードにして場面を焦点化することで、話し合うポイントを絞り考えを深めることができた。また、子供たちは、場面絵があることで、主人公の気持ちの変化を感じ取って、価値の追求、把握をすることができた。

見つめる

自分自身の経験を振り返り、身の回りの物で大事にしてきた物を思い出し、どんな気持ちで使えばよいか考えさせた。ここでは、友達の発表を聞き学び合うことで、自分では気付かなかった物にも目を向けることができ、身の回りには大切にしなければいけない物がたくさんあることに気付くことができた。

ひびく

トルコから体験入学に来ていた子供の母親をゲスト・ティーチャーとして迎え、その子が使っている本やランドセルは、

第2学年1組 道徳指導案 平成21年□月□日 (□) 第2時限 2の1教室 指導者 ○ ○ ○ ○		
1	主 題 えんぴつは なんさい	1 - (1) 節度, 自制, 自立
2	本時のねらい 身の回りのものを大切に使う気持ちをそだてる。	
3	本時の意図 物や金銭を大切に、身の回りを整頓して生活することは、基本的な生活習慣であり、これは、生涯にわたって行動の規範となる。子どもたちの学用品を見ると、新しいものになっていることが多く鉛筆や消しゴムを最後まで使おうとしている子は少ない。物に対しての愛着が強い子とそうでない子の違いがはっきりしている。ふだん何気なく物をむだに使ったり粗末に扱っている子どもたちに、主人公の気持ちに共感させ、物を大切にすることを育てたい。	
4	準備・資料 ・教師 場面絵 カード 大切に使った本やランドセル	
5	指導過程	
段階	学 習 活 動	指導上の留意点・支援 評 価
気 付 く 5分	1 落とし物を見た感想を発表する。 ○ 名前が書いてない。 ○ 消しゴムが多い。 ○ まだ使える鉛筆がある。	・ 落とし物の中には、落とし主の現れない物がいくつかあるので、その実物を示し、感想を聞き、本時への方向づけとする。
深 め る 25分	2 資料「えんぴつは なんさい」を読み、話し合う。 (1) どんな気持ちで鉛筆を削っていたか話し合う。 ◇切り込み発問 (2) 「おじいさんから話を聞いてたかしさんは、どんなことを思いましたか。」 ○ 鉛筆ができるまで71年もかかるんだ。 ○ 切ってから1年もかかるんだ。 ◇中心発問 (3) 「削りすぎて短くなった鉛筆を見つめるたかしさんは、どんな気持ちでしたか。」 ○ なにも考えないで削っていたなあ。 ○ 削りすぎてごめんね。 ○ これからは大切に使うよ。 ○ 最後まできちんと使おう。 ○ ほかの物も、大切に扱わないといけない。	・ 場面絵を見せ、たかしの表情や「おもしろいように」「どんどん」という言葉などからむだに削っているたかしの気持ちを考えさせる。 【キーワード】「だから、71さいなんだね」 ・ 身近な鉛筆が、樹齢70年以上の木から作られることを知って、驚いているたかしの気持ちを考えることで、中心発問での気持ちの変化やねらいとする価値に迫りたい。 【キーワード】「けずりすぎてみじかくなったえんぴつ」 ・ たかしの表情の違いを、場面絵から押さえ、気持ちの変化の気づかせる。 ・ 物を大切にできなかった自分の行為を反省しているたかしの気持ちに目を向けさせたい。 資料から、作られるまでのことも考えることで物を大切に使うという気持ちをもち、どうしたらよいか考えることができた。 〈道徳プリント・発言〉
見 つ め る 10分	3 これからの自分を見つめる。 ○ 身の回りの物で、大事にすればもっと使えそうな物はありませんか。また、どんな気持ちで使えばよいでしょう。	・ 学用品以外の物にも目を向けさせる。 ・ いろいろな場面で、物を大切にすることを考えさせる。 自分自身の経験をふり振り返り、身の回りにある物を大切に使うという気持ちを高めている。 〈道徳プリント・発言〉
ひ び く 5分	4 大切に使った本やランドセルなどを見せ、物を大切にすることについて、ゲストティーチャーの話を聞く。	・ 次に使ってくれる人のことを考え、物を大切に使った人の気持ちを感じ取らせ、実践への意欲につなげたい。
6	反 省	
7	高 評	



【授業の様子】

いとこや近所の子が大事に使った物であることを話してもらったことで、物を大切に使うという気持ちを高めることができた。

(イ) 6年生の実践 「サマーボランティア」 (「明るい心」 4-(4) 勤労, 社会奉仕, 公共心)

気付く

ボランティア活動をしている人の写真を見せ、ボランティア活動について知っていることを発表させることにより、ねらいとする価値の意識付けを図った。

深める

一人暮らしのおばあさんにお弁当を届ける仕事を通して主人公がボランティアとしての大切な考えに気付いた場面で、主人公の心の動きを考えることにより、社会に奉仕することの意義を考えさせた。また、社会に奉仕することは、他の人に喜びを与えるだけでなく、自分の喜びとなることにも気付かせるようにした。

見つめる

学習したことを基に、「心あったか集会」などを振り返り、今までの自分は委員会活動や学校の仕事などにどのように取り組んできたかを見つめさせ、学んだ価値をこれからの生き方につなげて考えさせた。

ひびく

校長先生をゲスト・ティーチャーとして迎え、通学団や異学年交流活動などで、最高学年として学校のみんなのために活動しようとする気持ちをより高めることができた。今後の活動につなげるとともに、ねらいとする価値がさらに心に響くようにさせた。

第6学年1組 道徳指導案 平成21年□月□日(□) 第3時限 6-1教室 指導者 ○ ○ ○ ○		
1 主 題 サマーボランティア 4-(4) 勤労, 社会奉仕 2 本時のねらい 社会に奉仕する大切さを理解し、みんなのために役立とうとする意欲を高める。 3 本時の意図 一人暮らしのおばあさんにお弁当を届ける仕事を通して、ボランティアに対する大切な考えに気づいた主人公の心の動きを考えることにより、社会に奉仕することの意義を考えさせたい。また、社会に奉仕することは、他の人に喜びを与えるだけでなく、自分の喜びとなることにも気づかせたい。 4 準備・資料 ・教師 場面絵 図書ボランティアの読み聞かせの写真 5 指導過程		
段階	学 習 活 動	指導上の留意点・支援 評 価
気 付 く 5分	1 ボランティアについて、知っていることを発表する。 ○ 図書ボランティアの人に読み聞かせをしてもらっている。	・ テレビや新聞のニュースなどから、ボランティアについて知っていることを発表させ、本時のねらいとする価値の意識づけをはかる。
深 め る	2 資料「サマーボランティア」を読んで、話し合う。 (1) 一人暮らしのお年寄りについて簡単に話を聞く。 ◇切り込み発問 (2) 「1回くらい休んでもいいじゃないか」と言った時、「博史さんはどんなことを思っていたでしょう。」 ○ たまには、休んでもいいじゃないか。 ○ 友達と野球をする約束をしてしまったから、休みたい。 ◇中心発問 (3) 「しっかりとした足どりで、おばあさんの家を後にしたとき、博史さんはどんなことを考えていたのでしょうか。」 ○ おばあさんを元気づけることができてうれしい。 ○ 中学生になっても続けよう ○ ボランティアっていうのは、弁当を届けるだけでなく、元氣も届けているんだ。 ○ 人の役に立つ仕事ができよかった。	・ 一人暮らしのお年寄りの不自由な生活について知らせ、資料への興味づけをする。 キーワード 1回くらい休んでもいいじゃないか キーワード しっかりとした足どりで ・ 博史の行為を通して、ボランティアは物を届けるだけではなく、気持ちや心を届けることでもあることや、人の役に立つ仕事をする喜びにも気づかせたい。 資料から、社会に奉仕する大切さを理解し、ボランティアに対する大切な考えに気づくことができたか。(道徳プリント・発言)
見 つ め る 10分	3 今までの自分をふり返り、みんなのためになる仕事をしたことを話し合う。	・ 最高学年としてみんなのために働くことにより、仕事を成し遂げた成就感や役に立った満足感を味わったことを発表させる。 ・ 自分は社会の役に立つ存在であることを自覚させ、みんなのために役立とうとする意欲を高めたい。 自分自身の経験をふり返り、みんなのために役立とうとする意欲を高めたか。(道徳プリント・発言)
ひ び く 5分	4 校長先生の話聞く。	・ 通学団や異学年交流活動などで、学校みんなのためにしている活動が認められている喜びを味わわせるとともに、今後の活動につなげたい。
6 7	反 高	省 評

エ 伝え合う力の育成（話し合いのスキルを高める時間の設定）

道徳の授業で「共感したり違いを認め合ったり」するためには、子供たち一人一人の伝え合う力を育てなければならない。そこで、毎週火曜日の業前に5分間「話し合いスキル」の時間を設定した。話し合いの技能を鍛える場として位置付け、「話し手」と「聞き手」の両面から、ねらいをもって取り組めるように、低・中・高学年別に内容を工夫した。

さらに、「聴く」意識を育てるために人の話を聴くときの心構えや、声の大きさを意識させる「声のものさし」を掲示していろいろな場面で心掛けさせた。

(2) 心をたがやす豊かな体験活動の工夫

体験活動は、今まで気付かなかった自分の良さや友達の良さに気付かせてくれる大切な場である。人とのつながりの大切さを体得させ、周りの人の気持ちを考えて行動できるやさしい気持ち、思いやりの心を育てることが規範意識を高めることにつながっていくと考え、実体験を中心とした活動を進めた。

ア 異学年交流活動

本校では、異学年交流活動を「わくわく活動」とよんでいる。計画を立てるに当たっては、

目標⇒**啓発**⇒**活動・体験**⇒**振り返り**⇒**学び合い**

という流れで活動を進めている。リーダー・サブリーダーを中心に、イモの栽培、わくわくタイム、にこにこランチなどいろいろな活動を通して、異学年の交流を図っている。これまでの積み重ねにより、高学年児童は自覚をもって低学年の子の世話をしたり、やさしく接したりすることができるようになってきている。また、低学年児童は高学年の子を慕い、教えてもらうことを喜び、楽しく活動に参加している。

振り返りや学び合いでは、自分自身のがんばりや仲間の良さに気づき、互いに認め合うことができた。振り返りカードは、各自「にしっこファイル」として記録を残している。

イ 児童会・委員会による集会活動(心あったか集会)

児童会役員と図書委員が運営委員となり、「思いやり」をテーマに全校集会を企画した。7月の集会に向けて、5月の半ばぐらいからめあてや内容などを検討し、協力して主体的に話し合いを進めてきた。

思いをふくらませる（目標）

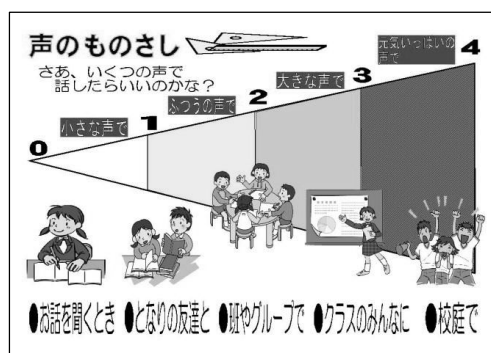
運営委員は、人とかかわることのよさや大切さを伝えていくことを目指して、集会の目標を、

- ・ 読み聞かせやゲームなどを通して、相手のことを考え、思いやりの心を広げよう。
- ・ 相手の気持ちを考えることの大切さに気づき、楽しく活動しよう。

と決め、「心あったか集会」というネーミングを考えた。



【話し合いスキルの様子】



【声のものさし】



【イモ掘りの様子】

また、思いやりの大切さに気付く「本の読み聞かせ」や思いやりについて考える「心ふわふわタイム」、友だちと触れ合う「仲間を集めようゲーム」を計画した。

思いを表す（啓発と体験）

事前に朝礼や児童会だよりなどで集会に臨むめあてを全校に知らせ、見通しと目的意識をもって活動できるようにした。

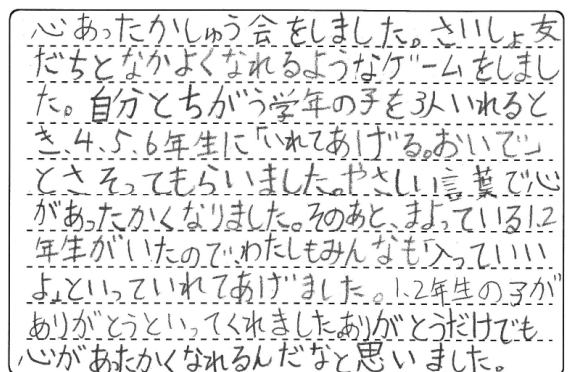
集会では、運営委員が熱意をもって取り組み、それぞれの役割を果たしたので、参加した子供たちも楽しく活動することができた。また、インタビューによる学び合いの場では、思いやりについての友達の感想を聞き、気持ちを共有することができた。



【心あつたか集会の様子】

思いをあたためる（振り返りと学び合い）

集会後、自分なりに気付いたことや感じたことを振り返りカードに記入することにより、思いをあたため、自分の生活に結び付けて考えることができた。また、振り返りカードを道徳コーナーに掲示したり、放送で紹介したりして学び合いの場を広げた。



【振り返りカード】

ウ 日常実践活動の見直し

(ア) 生活目標の見直し

より具体的な目標を考え、各学期、「重点目標・願う子供の姿」を設定した。

(イ) 児童委員会の活動

各委員会とも、親しみやすい別の呼び名を考えた。また、常時活動のほかに「思いやり・きまりを大切に」をテーマとした集会やキャンペーン活動を計画し、全校児童への啓発を行った。

【活動例1】にしっこレンジャー（生活委員会）

- ・ きまりをきちんと守って生活している子や友達の手助けをしている子などを、「きらりにしっこ」として、朝礼時に紹介している。
- ・ 「時間を守ろうキャンペーン」などの実施

【活動例2】ピカピカ隊（美化委員会）

「1秒でできる〇〇」というキャッチフレーズの下、運動を展開し、「1秒でできる整とん」を合い言葉に靴の整頓を呼び掛けた。整頓の状況に応じて画用紙の色を赤→黄→青と変えることによって啓発活動を推進した。さらに、「1秒でできる思いやり」を合い言葉に、トイレのスリッパの整頓を呼び掛けた。



【きらりにしっこの紹介】

(3) 根っこが育つ家庭・地域との連携推進活動

子供たちの規範意識を高め、モラルを向上させるためには、地域社会が道徳教育に果たす役割を十分に認識し、学校が家庭・地域と連携し、地域全体で子供たちの心に響く道徳教育を展開していくことが大切である。そこで、学校・家庭・地域が一体となって、ゆるぎない心の根っこを育てる活動「スリーハート運動」を推進していくことにした。

ア 地域清掃（にしっこクリーンキャンペーン）

5月30日のごみゼロ運動の日にあわせて、子供が汚れている場所やいつもお世話になっている施設を、地域の人と一緒に清掃することを話し合った。活動に意欲的に取り組むために、異学年グループのリーダーが、学年に合った作業を考えた。そして、清掃活動の場所・時刻・持ち物などのチラシを作り、地域や家庭に投函し、協力を呼び掛けた。

当日は、保護者のボランティアや地域の方々の協力を得て、草取り、落ち葉拾い、遊具拭き、歩道橋の階段掃除、児童館のじゅうたんのごみとりなど進んで行うことができた。地域の人と一緒に清掃したり、ごみ袋にたくさんの草が集まったりして、一人一人が「みんなできれいにしてよかったな」と感じる事ができた。

さらに、この活動を通して「甚目寺町を少しでもきれいにできた」「これからも続けていきたい」とみんなのために役立とうという気持ちも育った。



【地域の人も一緒になって草取り】

イ 相互理解を深める啓発活動

(7) スリーハート運動の親子標語作成

学校・家庭・地域が協力し合ってモラル向上をはかる「スリーハート運動」への関心を高めるため、夏休みに親子で一緒にスリーハート運動の標語を作成した。たくさんの応募の中からあいさつ・清掃と美化・地域に関する標語を3点選び、学校や地域に掲示し、地域のモラル向上の啓発活動を行っている。掲示活動は児童会役員と6年生児童が中心になって行い、公共施設や地域の店など掲示してほしいところを話し合い、依頼に行った。標語は建物の入り口などに掲示してもらい、子供たちだけでなく、地域の人にもモラル向上を呼び掛けている。



【町長さんに親子標語の掲示を依頼】

(4) 道徳通信「スリーハート」の発行

地域全体で子供たちの道徳性を培うため、三者が互いに情報を共有し、地域の道徳教育推進活動を啓発することをねらいとして、月1回道徳通信を発行している。道徳通信などを通して、道徳教育の意義やねらい、児童の実態や活動の様子を紹介することで、家庭や地域の人々の理解を深められると考えている。また、学校からの一方通行にならないように、保護者や地域の人々の考え等を掲載して交流をはかり、子供たちのモラル向上について、共に考えてもらうように啓発した。

いもの苗植えをしました
5月15日(金)に異学年交流活動の取り組みとして、いもの苗植えをしました！苗植えを行うまでに、たくさん地域の方々に恩の言葉をかけていただきました。そのおかげで簡単に苗植えが出来ることができました。ありがとうございました。
今年もおいしいいもがたくさんでできるといいます

子どもたちと一緒に是非ご参加下さい！！
ピカピカ甚目寺ごみゼロ運動
5月29日(金) 13:25~14:30
6月5日(金) 13:45~14:10

みなさんの甚目寺町をこまめにピカピカの町にしよう！！
ご協力いただける方は、下記のお近くの場所にお越しください。

清掃場所
*新田神社(法性寺の裏)
*302号沿い東側 二徳堂様~グランレイム甚目寺!!
*Jubokkyo 御座社(ヨネヅクラン様)
*新田屋敷4号子供広場(御座社北)
*302号東側(ヨネヅクラン様)
*学校前広場
*学校前広場

家族学校のお知らせ
6月13日(土)
*道徳授業公開 9:15~10:00
*家族懇話会 10:15~11:15
*演目「100万回生きた猫」
~劇団たんぽぽ~

【道徳通信「スリーハート」】

(4) 図書ボランティアと連携した読書活動の充実

本校では、保護者を中心とした地域の人が図書ボランティアとして、読み聞かせや図書館の整備などの活動を行っている。本を通じて、子供たちの想像力を伸ばし、豊かな心をはぐくむとともに、地域の人が子供たちと触れ合い、共感できる時間をつくりたいと考えている。毎月2回、「朝の読書タイム」の時間に行われる読み聞かせも、活動が積極的になり、読み聞かせる本も、ねらいに応じて伝え

たい思いのはっきりしたものが選ばれるようになってきた。

ウ モラル委員会の設置

学校・家庭・地域の三者が一体となったモラル向上・規範意識醸成のためにモラル委員会を設置した。教職員，児童，保護者，地域の代表で構成し，学期に1回開催する。道徳教育のねらいや児童の活動について報告をした後，今後の地域連携活動の進め方について話し合いをもつ。意見を交換することで，道徳教育についての関心・理解を深めるとともに，保護者や地域の人の思いや願いを理解し，その意見を反映させることで開かれた道徳教育を推進し，教育活動の成果が高められると考えている。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 成果

ア 道徳の授業

道徳の授業で，子供たちは様々な道徳的価値に触れ，自分の生活に照らし合わせて考えることができた。道徳の授業を通して子供たちは，社会にはみんなが気持ちよく生活するために大切にしなければならないことがあることや，それが自分たちの生活をよりよく維持することを再認識することができた。そして，獲得した道徳的価値を大切にしたい生活ができる自分でありたいと願う子供が多くなった。

イ 体験活動

様々な体験活動を積み重ねることで，振り返りカードに自分のことだけでなく，周りの人への思いを綴ることも多くなった。これは，自分，友達，周りの人にやさしい気持ちをもつことができるようになったことの表れである。また，この気持ちが次の行動につながるようになった。

また，児童を主体にしたきまりやマナーについての呼び掛け，実践により子供たちの内面にモラルに対する意識の変容が見られるようになった。学校全体で，きまりを守り落ち着いて生活することができる子，そのような意識をもって行動する子が多くなった。また，子供たちの中から「『きらりにしっこ』になりたい」という声が聞かれるようになった。

ウ 地域連携

スリーハート運動を通して地域に「子供たちをこう育てたい」という思いを伝え，積極的に協力を呼び掛けた。その結果，少しずつ学校と共に子供の成長に寄り添い，力を貸してくださる方が増えてきた。さらに，甚目寺町全体にも広めようという動きも出てきた。学校，家庭，地域の連携協働体制を整えるための一歩を踏み出すことができた。

(2) 課題

スリーハート運動の推進は，まだまだ学校主導である。もっと地域からの声が学校に届き，それによって活動できるような体制を整えたり，地域全体で子供たちを育てていこうとする意識を高める働き掛けをしたりする必要がある。そのことが地域全体のモラル向上にもつながっていくと考える。

人として豊かに生きていくための道徳的な心情は，様々な体験を通して培われ，積み重ねられていくものであるが，すぐに実践力に結び付くとは限らない。今後もあらゆる場面で継続して子供たちに働き掛け，子供たちの心の成長や実践力を身につけていく過程を長い目で見守り，支援していきたい。



【図書ボランティアによる読み聞かせ】



【モラル委員会の様子】